

くつろぎタイム

米づくりやウォーキングで健康を維持し、いつか四国八十八カ所を歩いて巡る旅をかなえたいと思います。

カメイ商事株式会社
代表取締役社長
仙台商工会議所 1号議員

あいざわ たかお
相澤 隆郎 氏
昭和30年8月9日生まれ
多賀城市出身
血液型O型



仙台第三高等学校を卒業後、山形大学理学部化学科に進学。大学卒業後、昭和54年4月(株)亀井商店(現カメイ(株))に入社。以来、営業畑一筋に歩む。化学品およびエネルギー分野で手腕を発揮し、平成12年秋田支店に4年、東京支店に3年間勤務。平成19年からファイナンシャル事業部に配属となり平成22年4月より現職。平成27年3月まで総合人材サービスを行うテンプスタッフ・カメイ(株)代表取締役も兼務した。好きな言葉は「不易流行」。

5月から9月までは、お米づくりをされていると伺いましたが、

そうなんです。私の家は曾祖父の代から米づくりをしておりまして、私が始めてからは今年でちょうど20回目になります。もちろん、日中は会社で仕事をしていますので、早朝から田んぼを見回って雑草取りをする毎日。土、日は間違いない田んぼに行っています(笑)。自分のところで消費する分として2反歩くらいしかつくっていないので、趣味の領域は出ないのですが、有機米をつくっているんですよ。

20回とはベテランですね。有機米となると手間がかかるのではなからうか。

いえ、米づくりは40回くらいやらないとベテランとは言えないんですよ。日本は一毛作ですから40年つくって

ようやく一人前なんです。タイのように四毛作なら10年くらいでプロになれるでしょうが。

それから、有機米というのは肥料に有機肥料を使うもので、自然農法はまた別です。大変なのは草取りなので、除草剤を使わないので、1本1本、必死に手で取ります。あぜ道の草取りも重要で、毎朝2キロから3キロくらいは歩くでしょうか。水の管理も大変重要なので、田んぼに張った水が流れ出てしまわないよう、モグラが穴を掘っていないかもチェックします。6月からの2カ月間は、毎朝4時から5時くらいまで、草取りをしてから出社することもあります。

このような生活を続けていられるのは、一つには農業への興味です。「パーマカルチャー」という言葉があるのですが、植物も動物も、そして人間も同じ場所で共生する、暮らしていくという農業のやり方で、この循環型の農業は私の理想とするところなのです。また、続いているもう一つの理由は、米づくりに集中して他のことを考えないので、とてもよいリフレッシュになっているからだと思います。

足腰を鍛えておく必要がありそうですね。

実は、休日は田んぼから帰ったあとにウォーキングに出かけるんです。それは米づくりのために体力をつけるというよりは、お酒をおいしく飲むためです(笑)。日本酒が好きな

ですが、お酒だけでは済みませんので、ついついカロリーオーバーになってしまってますね。ただし、米づくり期間は夜9時には寝てしまうので、お酒を飲むのは雨が降った日(翌日の草取りをお休みする日)だけなんです。今年の夏は36日間も雨が降り続いたでしょう。ですから、特にウォーキングには力が入りましたね。休みの日には七北田川沿いなどをよく歩いています。30キロくらいは歩くでしょうか。

そもそも、「歩く」きっかけになったのは、東京勤務のときに始めた七福神巡りです。都内に25カ所あるのですが、そこを全部巡り、さらに千葉や埼玉、神奈川でも挑戦しました。「道に迷っても、絶対に誰にも尋ねない」というルールをつくりましてね。そうすると、苦労はするものの、あちらこちら歩き回りますので発見があるんです。また町の歴史や文化、人々の暮らしなども見えてきておもしろいです。ゆくゆくは四国八十八カ所の札所を歩いて回りたいと思っています。ですよ。だいたい45日間で1500kmの道のりを歩くと言われていて、平均して一日30kmから40kmは歩くことになるので、日々のウォーキングがその訓練になれば良いと思っています。

その他に趣味はありますか。

趣味という点ではないですが、米

づくりから離れる10月から4月は、朝6時半に家を出て、会社に着くまでの約2時間、電車の中やコーヒーショップで、新聞や本を読んでいます。夜、早い時間に寝てしまう私にとって、朝のひとときは一日の始まりにエンジンをかける時間であり、くつろぎタイムでもあるんです。読む本のジャンルはそのとき話題になっていることをとらえた専門書や、ビジネス書が多いですね。小説も好きで、特に『蝸ノ記』で直木賞を受賞した葉室麟さんの時代小説はおもしろいと思います。葉室さんの本にかかわらず、巻末に掲載されている参考文献もとても気になります。ポケットに忍ばせた名刺大のメモ紙に文献名を書いておいて、それを読むこともしばしば。興味はどんどん広がっています。

車の運転も好きでして、最も遠いところでは、ここから約1300キロ離れた島根県の出雲大社まで家内と行きました。弊社は旅行事業もやっているの、遠出していろいろな地域をみることは、仕事の参考にもなります。自分で確かめないとお薦めもできませんし、新しい旅行プランをつくるときに、たくさん素材を持っていけばいくらかでも組み立てることができそうです。

最後にお仕事の近況や仙台に対する思いなどをお聞かせください。

弊社は、この9月11日で61周年を



2013年9月、奥さまと連れ立って出かけた出雲大社。自ら車を運転し、2日がかりでたどり着いた思い出の1枚。

やがて生まれ来る子供たちのために。

宇宙のオアシス『地球』。ただひとつの、この青い星を守って行かなくてはなりません。大切な人のために、そしてやがて生まれ来る子供たちのために。私たちは、よりよい環境をめざし、考えつづけます。



より良い環境をめざす
AOBA 青葉環境保全

本社/仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)